

中山間地域における住民福祉の向上のための地域マネジメントシステムの構築 —「健康」と「生き甲斐」の学際的分析を通じたアプローチ— (プロジェクト概要)

プロジェクト 構成

研究代表者：伊藤勝久(生物資源科学部・教授)，
谷口憲治(生物資源科学部・教授)，吹野 卓(法文学部・教授)，上園昌武(法文学部・准教授)，飯野公央(法文学部・准教授)，江口貴康(法文学部・准教授)，片岡佳美(法文学部・准教授)，関 耕平(法文学部・講師)，益田順一(医学部・教授)，並河 徹(医学部・教授)，塩飽邦憲(医学部・教授)，山口修平(医学部・教授)，王 涛(プロジェクト研究推進機構・研究員)，李 麗梅(プロジェクト研究推進機構・研究員)

概 要

住民福祉はさまざまな要因から成り立っています。これを高めることは、いかに住民の「健康」を増進し、「生き甲斐」を創出するかという問題に帰着します。本研究では、健康増進と生き甲斐の創出を目的とし、それらがどのような要因によるかを解明し、要因の増強対策と効果を社会実験で検証し、中山間地域の自治体が取るべき政策を提案します。



特 色 研究成果 今後の展望

大規模健診を実施、生活習慣病の性・年代差を確認

- 同じ地区・同じ対象者の20年前のデータと比較、健康要因とその変化を分析→内臓肥満や高血圧など生活習慣病の性・年代差がみられた。
- メタボリックシンドロームについては、その有効な医学的指標の検索を行っている。

生き甲斐増進に必要な条件と方法を調査

- 地域住民・自治会などを対象に聞き取り調査、各種アンケート調査を実施→地域のソーシャル・キャピタル*¹に関連する信頼感や自己確認などの重要性が明確に
- 家族構造・ライフスタイル・労働者・子育て世代・子ども・農業従事・など様々な側面からも調査分析を実施→生き甲斐の増進に必要な条件と方法を検討中



健診風景 (雲南市掛合町)

研究成果や方法論は住民福祉の向上に幅広く活用が期待される

健康増進は人類普遍の課題であり、少子高齢化や過疎化は日本全体の問題。従って、研究成果や方法論は中山間地域だけでなく、将来の日本全体・諸外国の住民福祉の向上に幅広く活用することが期待できる。

研究の特徴：中山間地域の特色を活かしたコホートの確立と政策提案を目指して

- ①中山間地域研究の特性を活かして長期追跡調査に適したコホート*²を確立……特に医学面では、大規模で良質なフィールド研究の礎となり、社会科学面では高齢化する日本社会の「先進事例」として中山間地域住民の定点観測をもとにした社会・産業・政策に関する研究拠点になる。
- ②自治体政策に役に立つ方法を具体的に提案……本研究は島根県雲南市の協力の下に実施している。そして研究結果を単に提示するだけでなく、社会実験でその効果を検証する。

*1 社会的繋がり(ネットワーク)とそこから生まれる規範・信頼により、共通の目的に向けて効果的に協同行動へと導く社会組織の特徴。 *2 ある地域に居住する、ある世代層など特定の属性を持つ人口集団。

図1 健康調査データのデザイン

人を対象に遺伝子多型、生活習慣、治療、QOLなどについて疾病との関連を前向きに調べる研究。これら因子に暴露されてから、生活習慣病発症までに数～数十年を要するため、前向き研究が必要。

